

6. 木工・大工の道具を作る ～新潟県・越後与板打刃物

久津輪 ではここで、今度は道具を作る側の職人さんにも加わってもらおうと思います。では、水野さんと千代鶴さん、壇上の方をお願いします。拍手でお迎えてください。それぞれ自己紹介をお願いします。

水野 鉋鍛冶をやっています、新潟の水野です。よろしくお願いします。

千代鶴 同じく鉋鍛冶をやっています、兵庫県の三代目千代鶴貞秀と言います。よろしくお願いします。

久津輪 ここでちょっと皆さんにお詫びというか、水野さんにお詫びなんですけれども。今回のこのパネルディスカッションを企画していて、実はチラシができ上がった直後に、水野さんがなんとクラウドファンディングを活用してお弟子さんを育てるという取り組みを始められたというのを聞きまして。で、急遽パネラーに加わっていただいたので、水野さんだけチラシに載っていないんですね。急遽来ていただいたという。本当にどうもありがとうございます。で、水野さんがお仕事をいらっしゃるのとは新潟県の長岡市なんですけれど、そちらの方にも調査で伺ってきたので、その概要だけちょっとご説明したいと思います。

場所がここですね。元々は与板町だったんですね。それが合併で長岡市になった。あと、隣の三条市も木工・大工系の道具の産地として有名な所です。で、長岡市で今どれだけ職人さんがいらっしゃるのかという事で、鑿が10人。鉋が水野さんを含めて5人。鉞をやっている方が1人という事で、今は16人の方が与板町にはいらっしゃいます。元々上杉謙信の家臣が刀鍛冶を招いてから産地として発展したとか？

水野 はい、そういう事ですね。一応、お殿様の刀を作るという事で刀剣士が来て、それでもう刀の時代が終わって、大工道具の方に変わっていったという事ですね。

久津輪 水野さんご自身は何代目になるんですか？

水野 一応四代目なんですけど、変な四代目。

久津輪 変な四代目？

水野 うん、戦争があつて兄貴が亡くなった時に、もう辞めていたお祖父ちゃんがもう一度つて。で、お祖父ちゃんが辞めた後、今度俺の父親が三代目として入って、で、俺が四代目だから。代はいっぱいなんですけど、ほんの短い間に。

久津輪 なるほど、分かりました。で、今現在は鉋



新潟県長岡市与板町の鍛冶 水野清介さん（左）
兵庫県三木市の鍛冶 千代鶴貞秀さん（右）





2019年 越後打刃物職人祭 & ミニ削ろう会



2019年 越後打刃物職人祭 & ミニ削ろう会



船津祐司さん (73) 鋳・鉋



小森秀樹さん (73) 鉋
正樹さん (67) 鉋

と鑿と鉋と、あと鉾が伝統的工芸品として経済産業省の認定を受けているという事ですね。ただ、鉾の鍛冶屋さんが去年の春に亡くなられたんですね。

水野 はい。

久津輪 だから今、鉋を作っていらっしゃる方が代わりに作り始められるようになったと伺っています。で、私達が調査をするにあたって、短時間でまとまった数の方にお話を伺わなくてはならないので、こういう職人祭、刃物祭みたいな所へ行って、朝から夕方までずっと職人さんにお話を聞くというやり方で調査を続けてきたんですね。ですから千代鶴さんも会場で立ち話でお話を聞いたのが最初でしたし、水野さんも削ろう会で最初にお会いしたんですね。この写真は6月、与板町でも越後打刃物職人祭というのと、全国削ろう会に倣う形でミニ削ろう会というのをやっています。これが、この回で9回目だったんですね。

水野 はい。次が10回目。今年の6月の第2の土日で日は決まっています。

久津輪 日は決まっているんですね。で、こういう大鉋の削りの実演とかもやっていたらいいなと思って。賑やかそうに見えるんですけど、実は私達が調査に伺った時は本当に暗い話しか聞こえてこなくて。

この方は、鑿、鉋を作っていらっしゃる船津祐司さんで、屋号は舟弘さんです。舟弘さんがこの職人祭の実行委員長でした。舟弘さんも73歳なので、「もう弟子は取らない」と仰っていて。それから、小森さん、左側が秀樹さんで、右が正樹さんですね。あと秀樹さんの奥様も一緒に3人でやっていたらいいなと思って。鍛冶屋さんなんですけど、こういう小鉋とか特殊な鉋の刃は、ほとんどこの人が作っているととても良い状況ですね。ですけど、この秀樹さんの方が去年の春ですか、脳梗塞にかかって倒られたんですね。ですから一部の木工とか大工の人達の間では、小鉋がもうひょっと



したら手に入らなくなるかもしれないという話が随分聞こえてきたりしました。で、こちらもお弟子さんはいらっしやらないという事ですね。

与板町というのは昔から聞く大工道具の産地なのに、若い人が本当にいないんです。唯一と言っていいのが、地域おこし協力隊で神奈川県から入って来られた30代の方で、今3年目になろうとしてるんですね。だから、この人を除けばほとんど60歳代というような状況で、先ほどの打刃物職人祭の夜の打ち上げの時も、「ひよっとしたら来年はもうやれないかもしれない」とか、「再来年は無理」とか。そういう話も出ていましたね。

水野 はい、そうですね。やっぱりね、若い人がいないって事はもう、元気がないって事がまず第一ですよ。例えば削ろう会をやったにしても、与板の鍛冶屋だけでは成り立たないんですよ、もう。それで、一応大工さん、あるいは鉋が好きの人っていうので、越後与板木遊会っていう会がありまして、その人達頼みで刃物祭が今できているって状態ですね。

久津輪 それは鍛冶屋さんとか、あとお仕事とか趣味で道具を使う、まあ、サークルみたいな。その人達が手助けしているという事ですね。

水野 だから、その人達が「もう辞めた」って言うと、できない。

久津輪 水野さんご自身も今まではお弟子さんとか、スタッフというか従業員さんとかを、今まで雇っておつもりは全く無かったと。

水野 ええ、もう若い頃は忙しくて、そんな人を頼んでどうこうする判断もできなかつたし、で、ある程度歳をとったらこう、教えても果たしてその子が一人前に立てるのかっていうのがあって、「まあ、無理かな」という話で、今回の話が出てくるまではもう全然考えは無かったですね。

久津輪 そういう事で、私も6月ぐらいに水野さんに伺った時は、明るい話は全く無くて。「ええ、無理だ」みたいなお話だったんですけど、それが突然というか、11月ぐらいですかね、これがインターネットに上がって、あとSNSで拡散されてきたんです。「500年の伝統をもつ「越後与板打刃物」の技術を後世に残したい！～後継者を発掘・育成し、継承～」という事で、これふるさと納税を活用したクラウドファンディングですね。ガバメントクラウドファンディングと呼ばれますけれども、その制度でお金を集めるというのを始められた。

水野 はい。

久津輪 で、その受け入れ役が水野さん。

水野 はい、そういう事です。

久津輪 ですね。1人目。

水野 はい。

久津輪 また、どうしてそう受け入れる事にしたのかという。

水野 きっかけはですね、長岡クラフトフェアというイベントがあって、私、その中の人達と結構仲が良くって、その人達が与板（の後継者問題）をなんとかしたいという話から始まって、どうにかならないかって話を持ってきたんですけれども、もう全然やる気がなかったんですよ。実際やろうとすると、まずお弟子さんの給料、自分の仕事、考えるととてもやれるような状態じゃない。今、自分1人で食べていますけれども、弟子が入ってきたら仕事を半分に分けてまで食べるかどうか分からない。で、じゃあ、俺が辞めた後には、今度与板に鍛冶屋さんがほとんど残らなくなっている状態ですよ。そしたら今度、道具を作る道具が入ってこなくなる。例えば、削るにしても、今センで削っているような人はもうほとんどないじゃないですか。グラインダーとか砥石とかはもう外の人頼みになって。今、与板は十何人もいるからそういう人が回ってきて置いていってくれるけども、まずそういうのから心配になるって事で、弟子の話は全然考えもしないっていう。

久津輪 なるほど。

水野 だったんですけども、クラフトフェアの人は「どうしても残したいから頑張れ」ということで、事務方は全部その人達がやってくれるということで、一応（越後与板打刃物）組合にも話をして「受けませんか？」って話をしたんですけど、結局誰の手も上らず、「なら、連れてきたお前がやれば良い」という事で、やるようになったということです。

久津輪 なるほど。ちょっと私の方からも補足させていただくと、長岡市には結構有名なクラフトフェアがあって、水野さんはそこで削り体験で出店されていたんですね。それで、主催者の方と仲良くされていたという。そのクラフトフェアの主催者の方達は別に「ソラヒト日和」という地域活性化のNPOもやっていらっしやって、後継者のいない色々な地場産業の後継者を見つけるプロジェクトをやっているという事で、一番最初はやっぱり与板の打刃物じゃないかと。で、前からクラフトフェアに出させていただいていた水野さんに声をかけたといういきさつなんだそうです。それで、お話をお聞きしていると、一番の課題が、後継者育成の事業は教わる人に補助が出るパターンは多いけれども、教える人に補助が出るパターンが割と少なくて。



水野 そうそう。

久津輪 という事で、水野さんは自分の手を止めて教える作業をしている間、収入が全く無くなってしまったのをどう補填できるかという所で、今までは受けてこれなかったということ。

水野 はい、はい。

久津輪 実は国の方の、先ほど土佐の鍛冶屋創生塾で活用されていた伝統的工芸品の補助金では、教える側にもお金が出る。実際土佐では出ているので、それをNPOの人達が活用して、後継者育成をやったらどうかと。ただ課題があって、伝統的工芸品、国の補助金では設備は建てられないよという話だったんですね。

水野 はい。

久津輪 水野さんがお弟子さんを受け入れるにあたって、例えば休憩スペースが少なくとも必要だろう、家でやっているの。とか、あとは鉋を自分で作ったらそれを実際に削ってみてその完成具合を確かめるようなスペースも必要だと。それを作るためのお金が国の補助金では出ないので、そこの部分を県のふるさと納税の仕組みを使って、お金を集めたらいいんじゃないですか、ということで取り組まれた、ということですよ。

水野 はい。

久津輪 これ、11月ぐらいから始めたと思うんですけど、1月の末ぐらいまでが期限だったのが、あっという間に100万円突破して、12月の末でもう終わっちゃったんですね。で、締め切りになってしまいました。これ、反応を見てどうでしたか？

水野 いや、もう集まるだなんて思ってなかったんですよ。皆さん、そんな鍛冶屋に興味があったとしても、お金を出してまで応援するようなもんじゃないのかなあなんて勝手に思っていたのが、一応削ろう会の力も借りまして、ネットに上げさせてもらったりして、

そしたら「なんか集まりが早いよ」とかいう話になって。でも、年賀状に一応皆にお願いをしようという事で、なんだ、あのぐじやぐじやぐじやってしたマーク、あれ何て言うんでしたかね？

久津輪 ああ、QRコード！

水野 年賀状にプリントして出してたら（年賀状が届く前に）「いっぱいになったよ」って言われて、それでも、今回ここに来た人で出してもらった人もいると思うんですけども。で、出そうかなあって思っていた人もいっぱいいて。

久津輪 これからね。

水野 だから、その人に今日謝りに、ここでせねばなあって思っています。

久津輪 ちなみにこのクラウドファンディング、お金を寄付した方いらっしゃいますか？ この中に、お、後ろにいらっしゃいます、お二人。僕もしました、はい。でも、ね、これだけの期待を受けると、責任感じちゃいますね。

水野 そうですね。やんなきゃ良かったかなあと思ったり。

久津輪 (笑) 計画としては、5年計画。

水野 正直、今年70ですんで、もう5年もつかもたないか。自分自身がですよ。だから5年の内にいっちょ一めー（一人前）にしないと、その人が旅立ってねえのかなと思って。普通鍛冶屋なんて10年経ってもいっちょ一めーにはならないんだけど、つきつきりですら5年でなんとかなるんじゃないかって。で、国の補助を受けようかって話になったんですけど。

久津輪 これから、募集、公募される訳ですよ？

まさに土佐のように選考をして、という感じですかね。

水野 はい。

久津輪 ガッツのある人を。

水野 そう。一応国の予算を使うので、まだ出発をしてないんですよ。

久津輪 ああ、そうか。これから申請を。

水野 4月に予算がついて初めて出発できるという。

久津輪 もしそれが決まれば、5年はつきつきりでやるつもりでいらっしゃる。

水野 そういう条件なんで。もう、クラフトフェアの人にもそう言われてるんで。まあね、家が与板にあるんで逃げても余裕は無いんで、頑張るしかないかなと。

久津輪 多分、全国の木工家、大工の人が注目していると思いますので。ぜひ、頑張っていただきたいと思っています。ありがとうございます。